報道関係者各位
プレスリリース

2012 年 08 月 09 日
株式会社 Beat Communication

ビートコミュニケーション、『３・１１を支えた小さなヒーロー達』で
ソーシャルテクノロジーの未来とスマート国家戦略を提言

ソーシャルネットワークの雄、株式会社 Beat Communication　以下：ビート(本社：東京都港区、代表取締役：村井 亮)は、『３・１１を支えた小さなヒーロー達～ソーシャル革命が示す日本の復興と未来～』を株式会社ごま書房新社より８月２日に発売開始したことを発表します。

この書籍では、3.11 の時、ソーシャルテクノロジーがどのように使われたのか、ソーシャルの未来はスマートテクノロジーと連携し、どう進化していくのか、これからの未来社会や国家戦略のあるべき姿についての提言が書かれています。　我々が住む現代やこの先の未来でも、新型ウィルスから国の財政破綻、大地震、国境紛争から環境問題まで、危機はあらゆるところで待ち構えています。これ等、連鎖する危機に対し、どうすればそれ等を乗り越えていく事が出来るのか、さまざまな最新テクノロジーやコンセプトを紹介しています。

ビートの村井社長によると「今の日本には明確な国家ビジョンがなく日々討論に明け暮れ、今何をなすべきかの大義を忘れ、いたずらに大切な時間を浪費してばかりいる感があります。これからの日本は一体どうあるべきか。震災で失った大きな傷跡を立て直す復興と同時により斬新なビジョンを描き、いち早くそこへ邁進していくことが急務と感じました。今回は、企業の枠を超えて、山積する問題の解決策となるテクノロジーやアイディアをすべて書籍にまとめました。今の日本は岐路に立たされており、国家は明確なビジョンを持ち、政策運営を開始しなければ国民が全く望んでいなかったような未来社会が到来する可能性を秘めています。」

【書籍概要】
書籍名：『３・１１を支えた小さなヒーロー達 ～ソーシャル革命が示す日本の復興と未来～』
著者　：村井 亮
発売日：2012 年 8 月 1 日

仕様　：181 ページ
定価　：1,575 円(税込)
ISBN: 978-4-341-13215-6
発売：ごま書房新社

発行　：ごま書房新社
目次　：1.小さなヒーロー達が起こした奇跡
2.SNS の歴史
3.始まっている世界各国の ICT 戦略
4.モノ作りの終焉とサービス作りの始まり
5.ソーシャルシェアリングが日本を救う
6.21 世紀における組織の使命

本書内容の抜粋

本書より抜粋（P.8）

私は政治家、教育者、医師、弁護士、科学者、芸術家、経営者、建築家、宗教家、料理人、マスコミ関係者、ビジネスマン、知識人などそれぞれの業界でそれなりの立場に立つ者にはノブレス・オブリージェ（知識人には責任が伴う意味）の義務があると思います。

例えばマイクロソフトのビル・ゲイツの場合はビジネスにおける戦いとフィランソロフィー（慈善活動）を分けて行動していました。

一方、アップルのスティーブ・ジョブズは製品自体にフィランソロフィーの色合いが濃く、難病の中、命が尽きるまで経営を通じて我々の、ライフスタイルを飛躍的に便利に変える新製品を次々に創造し、社会貢献を行ってきました。これらの天才的巨人達は世界中の人々に便利さと同時に優しさと大きな夢を与えてくれました。

本書より抜粋 2（P.138）

ここで、人と人との触れ合いがどれだけ人間にとって大切かを図る、興味深い話をご紹介しましょう。第二次世界大戦後、アメリカの孤児院で 91 人の赤ちゃんを

調べたところ、両親を失って預けられた孤児の死亡率が、2歳になるまで37%、実に3人に1人以上が命をなくしてしまいました。他国でも同様の現象が報告されており、生命を維持するための栄養が足りていても、愛着やコミュニケーションの対象が不足していると、人は簡単に死んでしまう事を示しています。

本書より抜粋(P.176 おわりに)

人類が自ら起こした文明の利器にもそれをも凌ぐ大きな落とし穴があったことをも再認識されられました。文明が高度化されるにつれ人々の満足度は増してゆくはずが、なぜか人々はやる気をなくしたり責任を回避しようとします。ありとあらゆるテクノロジーがある故に今や孤立しても生きられるという思い違いがあるのかもしれません。

　この本を書くにあたって3つの願いがありました。

　1つ目は迷走している日本の政治にICTテクノロジーの側からアプローチし災害における解決方法を提示したかったこと。

　2つ目は日本全国に散らばる小さなリーダー達に今こそ立ち上がって欲しいというメッセージを伝えたかったこと。

　3つ目はさまざまな分野における人達が力をあわせ国家政策のビジョンをより明確にすれば、希望のある未来が構築できるということです。

　私自身SNSの世界に携わっているので外部から客観的にハラハラして見ているところもあります。実際現場にいる方々は、七転八倒して方策を練っておられる事でしょう。

　今後も続けて起こりうる想定外の出来事に備え一体どうすればいいのか？　この本では自分が学んできた事と情報社会でその時起きた数々の事例を述べさせていただきました。

　文面の中に登場した小さなヒーロー達も決して映画の中だけではなく、常に我々の身近にいることも知っておいていただきたいと思います。
【販売方法】

●amazon による販売
http://www.amazon.co.jp/dp/4341132156/
●全国の書店およびウェブ書店による販売

■㈱Beat Communication 概要
社名　：株式会社 Beat Communication
代表者：代表取締役 村井 亮
設立　：2004 年 1 月 6 日
資本金：3,500 万円
所在地：〒107-0062 東京都港区南青山 5-8-1 Scene Akira 3F
URL　：http://www.beat.co.jp

2003 年に国内で初めてビジネスソーシャルネットワーク(SNS)実験を行い、2004 年には世界で初めて法人向けソーシャルネットワーク(社内 SNS)パッケージ、2008 年には世界に先駆けて企業の CO2 を削減する IT システム「Eco Style」を開発した会社。東日本電信電話株式会社(NTT 東日本)、株式会社 NTT データ、日本興亜損害保険株式会社、株式会社損害保険ジャパン、キヤノンマーケティングジャパン株式会社など数多くの大手企業・団体に主力製品である「Beat Office」をはじめとする SNS システム等を導入している。2012 年法人向け SNS 導入シェア国内第 1 位。